Earth hacks
プレスキット

「我慢の脱炭素」から「豊かな選択肢」へ

ー生活者の「楽しい」を脱炭素に変える、博報堂×三井物産の共創プラットフォーム

※2026年10月時点での情報です

Earth hacks

目次

01	プレスキット概要
02	社会背景と最新ファクト
03	Earth hacks とは / 会社概要・存在意義
04	Earth hacks とは / 目指す未来（代表メッセージ）
05	デカボとは
06	デカボスコア / 仕組み・特徴・算出方法
07	デカボスコア / 社会インフラ化への展望
08〜11	社会実装事例（生活者接点 / 企業・地域連携 / 教育・次世代 /『環境に良い選択』が日常になる仕組みづくり）
12	メディア向け情報 / 逆引き取材テーマ・企画案
13	会社情報（会社概要 / 代表プロフィール / 各種サイト・SNS）
14	Media素材

私たちは、脱炭素を“ 我慢やコスト ”ではなく、
生活者に選ばれる“ 新しい価値 ”へ変える会社です。

生活者の自発的な行動変容を起点に、
環境価値を企業の持続的な成長機会へと転換する、
新しい社会インフラの構築を目指しています。

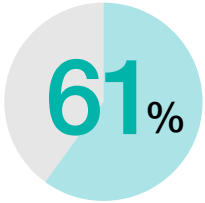
メディア、パートナーの皆様へ

・本資料は、Earth hacksの事業価値と社会的意義を短時間でご理解いただけるように構成しています。
・取材や記事作成における「信頼できる一次情報源」として、そのまま情報・データをご活用いただけます。
・馴染みやすい「%off」で脱炭素の努力を可視化する「デカボスコア」の社会的意義と、私たちが描く明るい脱炭素社会の未来像をお伝えします。

「脱炭素の意識」と「実際の行動」に立ちはだかる3%の壁

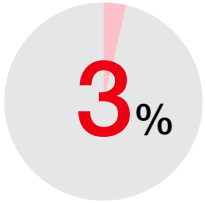
CO2排出量の61%は「家庭内消費」に起因。生活者の行動変容が必須の時代に

2030年度までの46%削減（2013年度比）に向け、日本人の脱炭素への認知は9割を超えています。しかし、**「日常的に脱炭素アクションを起こせている」と回答したのはわずか3%**にすぎません。



家庭内消費によるCO2排出量割合

日本の消費ベース排出量における割合



自発的な脱炭素アクションの実行率

高い関心（9割）に反し、行動層は極少

なぜ行動できないのか？（生活者の本音）

「自分に何ができるかわからない」が **58.1%** でトップ。我慢や義務感を強いるアプローチは定着せず、身近な行動への具体的な選択肢が不足しています。

求められる行動スイッチ：「楽（ラク）・得（トク）」

脱炭素サービス利用のフックとして「かっこいい・お洒落（38%）」「貢献度の可視化（29%）」が「経済的なメリット（16%）」を上回る結果に。

博報堂の「生活者発想」×三井物産の「事業構想力」から生まれた共創組織

Earth hacks & Co.

脱炭素を「我慢」ではなく「ステキな暮らしの結果」に変える。
生活者発想を起点に、「正しさ」だけではなく「楽しさ」から
参加したくなる脱炭素アクションを創出します。

WHO WE ARE

脱炭素を、
ステキな暮らしの選択肢に変える。

博報堂の「生活者発想＆クリエイティビティ」と、三井物産の「事業構想力＆社会実装力」。2社の強みを掛け合わせ、「我慢する脱炭素」ではなく、環境に良いことが自然と日々の選択肢に入る“豊かな暮らし”の実現を目指す共創型の事業会社です。

博報堂のアプローチカ **生活者発想＆クリエイティビティ**

生活者のインサイトを捉え、脱炭素を「誰もが選びたくなる価値」へと変換。
生活者発想とクリエイティビティを生かし、共感や行動につながる体験を設計します。

三井物産のインフラカ **事業構想力＆社会実装力**

国内外に広がる事業基盤や産業ネットワークを生かし、企業・自治体など多様なパートナーとの共創を通じて、脱炭素の取り組みを社会へ実装していきます。

「脱炭素を楽しく」ではなく、「楽しいことが脱炭素に」なる世界へ

MESSAGE

我慢や義務感から始める脱炭素ではなく、日常の中にある環境に良い選択を発見・称賛し、無理なく前向きに選択肢を増やしていくこと。デカボスコアなどのサービスを通じて「楽しい選択が結果として脱炭素につながっていた」という体験を定着させることが、私たちの目指す姿です。

これは生活者だけでなく、企業にとっても非常に大きな価値を持ちます。これまで見えにくかった企業の環境努力を可視化して伝わる形にすることで、売上向上や統合報告書（IR）での評価といった、確かな経済価値へと繋がる循環をすでに生み出し始めています。

2050年にカーボンニュートラルを達成したとき、今より暗い社会であっては意味がありません。今以上に笑顔あふれる明るい2050年を目指して、Earth hacksはこれからも挑戦と創造を続けていきます。

Earth hacks株式会社 代表取締役社長 CEO　**関根 澄人**

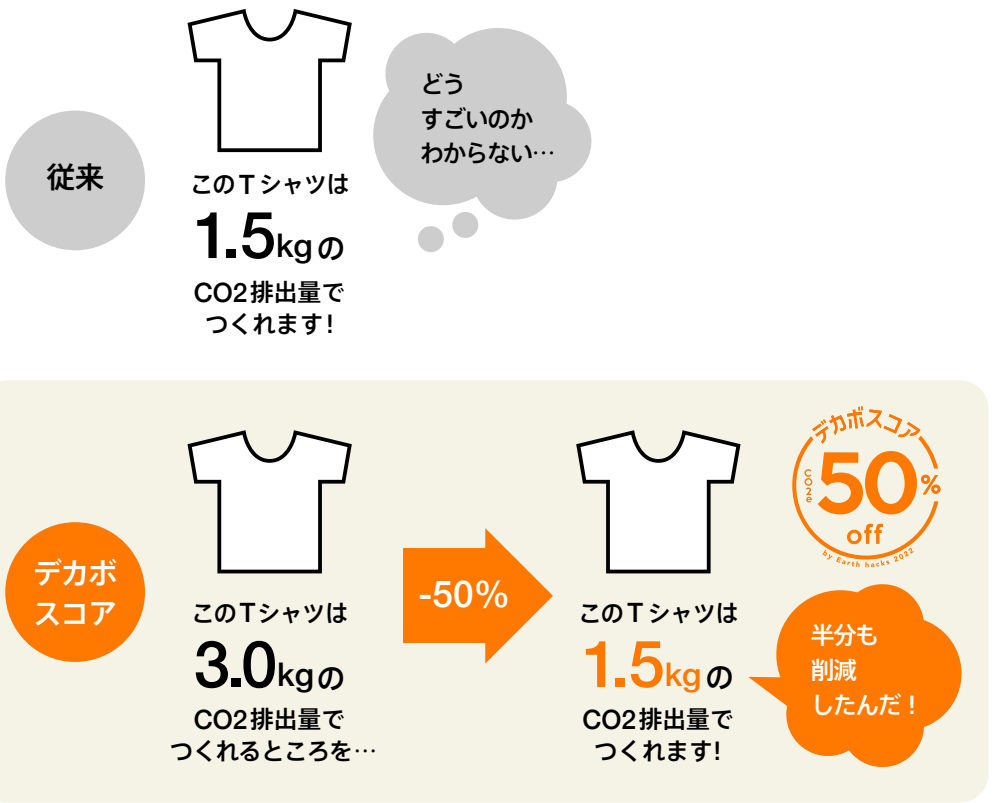
「デカボ」ー 脱炭素の新しい共通記号、その誕生の背景

「エコ」「エシカル」に潜む ネガティブさを、 お洒落な記号へアップデート

これまでの環境活動は「削減」「我慢」がセットで語られがちでした。私たちはデカーボナイゼーション(脱炭素)から親しみやすい3文字をとった「デカボ」と名付けました。「ボカロ」や「メタボ」のように、3文字の濁音を含む言葉は、日本人に直感的かつポジティブに響き、日常会話に入り込むフックになります。

実数表示から「% off」への大転換

「CO2排出量〇.〇kg」とCO2排出量を実数で示しても伝わらず、「従来比〇%削減」という相対表示に変えたところ大きな反響。ここに事業価値を確信しました。



「企業努力を褒める」というデカボスコア独自の哲学

「%off」による購買誘導

世の中にある無数の「環境マーク」は、どれも緑色や葉っぱのデザインで一見して違いがわかりません。デカボスコアは購買時に最も反応しやすいお馴染みの**「%off」**デザインを採用し、スコアを詳細に知らなくても直感的なお買い物選択を促します。

優劣をつけない改善評価

他社と比べるランク付け(A~E)は企業の反発を招き、生活者にも我慢を強いる形になります。デカボスコアは**「その企業自身が従来製品からどれだけ努力して改善したか」**をパーセントで褒める、極めてポジティブな仕組みです。

企業努力に潜む“環境価値”の再発掘

ボトルの軽量化、パッケージの電子レンジ対応、詰め替え用製品。これまでコスト削減や利便性向上のためにやってきた企業の技術や工夫があります。デカボスコアは、それらの活動の裏に隠れていた「環境への貢献度」を改めて数値化し、企業の新たな強み(環境価値)として可視化します。









国際基準LCA×SuMPOとの連携による算定の信頼性を確保

製品・サービスのライフサイクルにおけるCO2排出量評価を可視化

■ ISO規格に準拠したLCA算定

LCA（ライフサイクルアセスメント）の国際規格であるISO規格に準拠した手法を採用しています。原材料の生産から製造、加工、流通、消費、廃棄・リサイクルに至るBeforeとAfterのCO2排出量を同一条件で比較し、その削減率をデカボスコアとして算出します。

■ SuMPO（サステナブル経営推進機構）との連携

日本のカーボンフットプリントプログラムを主導するSuMPOから、産業技術総合研究所が整備するデータベース「AIST-IDEA」のライセンス提供を受けて活用。Earth hacksによる一次算出に対し、SuMPOがダブルチェックを行うことで、算定の妥当性・客観性を高めています。



製品・サービスのLCA 算定範囲と工夫の例

【原材料調達・生産】（食）	農薬や肥料使用量の削減、栽培方法の見直しなど、生産段階における温室効果ガスの排出削減。
【製造・加工】（日用品）	再生可能エネルギーの使用や、資材使用量および製造時の排出削減。
【流通・販売】	輸送手段および輸送ルートの効率化。

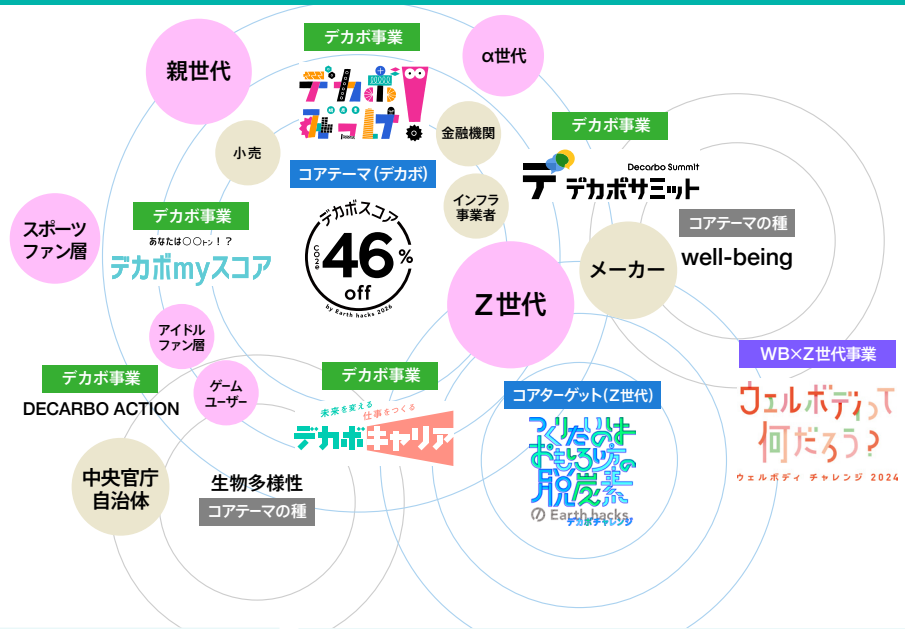
ファンコミュニティと共に創る、中長期の社会インフラ化ロードマップ

VISION & IPIZATION

目指すのは「これからの、時代にあった新しい選択基準」

「デカボ」のオープン化により、あらゆる産業との共創を加速

Earth hacksが培ってきたデカボスコアの仕組みや算出ロジック、ファンコミュニティ、およびキャラクター等のアセットを、様々な企業やプラットフォームへオープンに提供(開放)していきます。これにより、自社完結のサービスに留まらず、あらゆる産業の既存サービスや街づくりと滑らかに融合。単なる企業の「認証」ではなく、社会のあらゆる接点にデカボが溶け込んだ「買い物の新しい標準(共通インフラ)」の構築を目指します。



① ファン化・コミュニティ化

Z世代やファミリー層を主軸とした、生活者主導の強力な「脱炭素コミュニティ」を醸成します。「環境に良いから」ではなく「楽しくて魅力的だから」集まるファンがいるからこそ、多くの企業が自然と参画できる土壌をつくります。

② 脱炭素エコシステムの開放 (オープン・ライセンス展開)

一般流通商品、大手コンビニ製品から地方の名産品に至るまで、「デカボスコア」そのものを信頼の証としてあらゆる企業へ開放します。多様なプレイヤーとブランド価値を共有し合うことで、持続可能なエコシステムの強固な土台を構築します。

③ 官民連携による社会実装プラットフォームの推進

これまでの実績と信頼を基盤に、国や地方自治体が進める「生活者脱炭素推進プログラム」と連携。デカボをインフラとした社会実装プラットフォームを官民一体となって共同運営し、地域ごとの課題解決に貢献します。

「日常のお買い物」そのものを脱炭素アクションに変える店舗実装

我慢しない脱炭素体験を日常の購買現場へ提供。
スーパー、バラエティショップ、外食チェーンなど、生活者が毎日触れる売り場を「脱炭素の学びと楽しさの場」へアップデートしています。

① バラエティショップ・専門店展開（ロフト / ビオセボン）

対象商品の一部（ロフト）



売場写真（ビオセボン）



■ロフト（LOFT）全国176店舗
6月の環境月間に雑貨やコスメ棚にデカボスコア（POP）を一斉掲示。「可愛い・お洒落」を入口に環境配慮商品を選ぶ楽しさを提示。

■ビオセボン（Bio c' Bon）全24店舗
オーガニック商品等の店頭POPに展開。お買い物を通じた「具体的な貢献実感」を可視化。

② 日常スーパー・食品流通（東急ストア / 阪急オアシス等）

対象商品の一部（東急ストア）



売場写真（阪急オアシス）



■食品売り場での棚札導入
普段のお買い物で触れる食品棚の販促POPにデカボスコアを導入。（東急ストア・阪急オアシス合計70店舗以上に導入。）CO2削減率を「見える化」し、食材選びに新しい選択基準を提供。

③ 大手外食チェーン（UCC上島珈琲：上島珈琲店）



■デカボスコア連動の割引施策で、タンブラー売上が前月比4.5倍に伸長
CO2削減率「63%off」に合わせた「63円引き」キャンペーンを実施し、顧客の関心と購買を強力に促進。特徴的な割引率をきっかけに来店客からの問い合わせが増加し、店舗スタッフの脱炭素教育にも貢献。

省庁・産業・地域社会とのアライアンス拡大

省庁・制度・スポーツ・自治体など、社会基盤を担う大手プレイヤーとの強力な連携により、
デカボスコアを活用した新しい環境価値の共創を社会全体へ拡張しています。

① 省庁・行政・制度連携（環境省 / 経産省等）



■日常生活における96の脱炭素アクションをデカボスコア化し、可視化データベースを構築

環境省等と連携した国民運動の一環として、マイバッグ利用やゴミ分別などのCO_2削減効果をスコア化し、生活者の主体的な行動変容を促進。

② スポーツ共創（ガンバ大阪等）



©GAMBA OSAKA

■サポーターの「ファン熱」を活かした体験施策により、スポーツの場での脱炭素アクションを後押し

選手のスコア掲示や診断計測ブースを展開し、4日間で約900人が計測に参加、衣料品回収約60kgを達成するなど熱量高い行動変容を実現。ファンが楽しく参加できる環境貢献モデルを創出。

③ 自治体・地域連携（BtoG・地域プロジェクト）



■地域密着ソリューション「Earth hacks for Local」

愛媛県をはじめとする、地域の地産地消商品や環境配慮アイテムへデカボスコアを導入。行政・地域企業と連携し、市民が日常で参加できる地域一体型の脱炭素プロジェクトを全国展開。

教育・エンタメと融合する「Z 世代・次世代」の巻き込み

「難しそうで関わりにくい脱炭素」を、若年層の知的興奮や推し活、
日常の遊びと滑らかに融合させることで、次世代の自発的な行動変容を促しています。

①「デカボすごろく」(中高生向け探究学習)



■中高生向け探究学習教材をbatonと共同制作

クイズやすごろくを通じて楽しく学べる教材を制作。教育現場への浸透と自発的な学びを創出。「消費者教育教材資料表彰2026」優秀賞を受賞。

URL:https://tankyu.baton8.com/material/28

また、batonが運営するYouTubeチャンネル「QuizKnock」とのコラボ動画を通じ、デカボスコアを楽しく学べるコンテンツも展開。141万回再生(2026年10月20日時点)。

動画URL:https://youtu.be/tMwQlEAvpVc

② Earth hacks×Hello!Project 特別ユニット「DECA!BEAT」

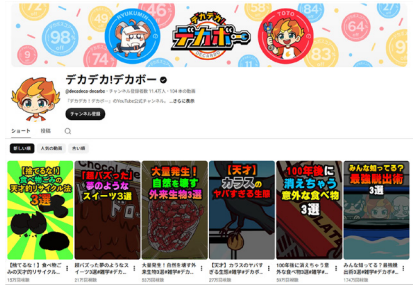


■「推し活」×「脱炭素」の新しい体験価値

ハロー!プロジェクトの次世代メンバーと環境応援ユニットを結成。楽曲やMVをフックに若年層の行動変容を推進。実際にXで行動・実践するファンも多数。MV「ワッチャ☆フューチャー」の動画は70万回再生(2026年9月11日時点)。

MV URL:https://youtu.be/gqgBqDDyPZ0

③ Earth hacks×BitStar「デカデカ! デカボー」



■アニメ「デカデカ!デカボー」を展開し、登録者10万人・平均125万回再生(※)を記録

人気IPの知見を活かし、Z世代・α世代やファミリー層がエンタメ感覚で脱炭素を学べるYouTubeアニメを共同開発。高い視聴維持率と大きな反響を獲得(※集計対象:「デカデカ!デカボー」YouTube公式チャンネル/集計期間(2026年3月2日～2026年7月24日))

動画URL:https://www.youtube.com/@decadeca-decarbo

「いくら使ったか」から「どんな未来を選んだか」へ

Earth hacks は、環境価値を「楽しい・わかりやすい・おトク」な体験へ変えることで、
「環境に良い選択」が日常の中で自然に選ばれる仕組みづくりに取り組んでいます。
CO2削減量の可視化に加え、ポイントなどのインセンティブを組み合わせることで、
環境への配慮を新たな商品選択の基準のひとつとして定着させることを目指しています。

Vポイントマーケティングとの共同実証

東京都主催「TOKYO GX ACTION MUSEUM」において、体験型展示「デカボマート」を実施。商品のCO2排出量を" 重さ "として体感しながら商品を選び、環境配慮商品の選択に応じてVポイントを付与する実証実験を実施。2日間で約1,800人が体験。

■実証で見えた可能性

✓ CO2の見える化が商品選択を後押し
✓ ポイント付与が環境配慮行動の動機になる
✓ 環境価値が企業と生活者をつなぐ新しいコミュニケーションになる

■今後の展望

今後は自治体・小売・メーカーとの連携を広げ、日常の売り場への社会実装を目指します。



逆引き取材テーマ・企画案

社会・ニュース

■「我慢する脱炭素」から「選びたくなる脱炭素」へ
生活者の行動変容を生み出す、新しいGXのかたち

■ 環境価値は、なぜ伝わらないのか
定点調査から読み解く生活者インサイト

経済・ビジネス

■ 環境価値は企業の売上になるのか
サステナブルを競争力へ変えるマーケティング

■ デカボスコアが目指す社会インフラ
企業・自治体・生活者をつなぐ新しい環境価値

トレンド・Z 世代

■ 推し活・ゲーム・買い物から始まるGX
QuizKnock・DECA!BEAT・デカボマート

■「おトク」が環境行動を変える
Vポイントと描く、「環境に良い選択」が日常になる仕組みづくり

その他、取材・コメント対応テーマ

GX / 脱炭素 / 生活者行動変容 / サステナブルマーケティング / 環境配慮商品の購買行動 / 企業・自治体との共創 / Z世代・α世代マーケティング / デカボスコア・環境ラベル など

Earth hacks & Co.

Earth hacks株式会社

「生活者が楽しみながら脱炭素に参加できる社会」の実現を目指し、企業・自治体・生活者との共創を通じて、環境価値を日常の選択へ変える仕組みづくりを推進しています。

会社名	Earth hacks株式会社（英名：Earth hacks＆Co.,Ltd.）
設立	2023年5月16日
代表者	関根澄人
所在地	東京都渋谷区渋谷３丁目６−15−701
事業内容	環境に配慮した商品又はサービスの提供 ①CO2排出削減量の計算 / デカボスコア提供　②マーケティング支援　③EC運営・販売　④見本市やイベント開催　⑤新規共創支援　等
資本金	1億円
出資比率	三井物産50%、博報堂50%

※2026年10月時点での情報です



Earth hacks 株式会社
代表取締役社長 CEO

関根 澄人

2009年、東京科学大学大学院（旧・東京工業大学）生体システム専攻修了。環境問題を生活者にわかりやすく伝える仕事を志し、博報堂に入社。企業のブランディングや商品マーケティングを担当後、2018年に博報堂従業員組合中央執行委員長を務める。2020年より三井物産へ出向し、2022年に両社の共同事業としてEarth hacksを立ち上げ、2023年にEarth hacks株式会社を設立、同年5月より現職。
「脱炭素を、生活者が選びたくなる価値に変える」ことを軸に、企業・行政・教育機関・メディアと共創。COP28・COP30、きさらぎ会、経団連など国内外で多数講演し、著書に『脱炭素（デカボ）は伝え方が97％』『答えのない時代の教科書』。経済産業省「GX製品市場に関する研究会」委員としてルールづくりにも参画。J-WAVE『offの日、どっちっち』ではMCを務める。

https://co.earth-hacks.jp/

https://x.com/Earthhacks2023

https://www.instagram.com/earthhacks.jp/

https://www.tiktok.com/@decarbo46

https://www.youtube.com/channel/UC3ulqWfg9fCWm5TzWTTY0fg

https://www.youtube.com/@decarbo46

Earth hacks & Co.

デカボスコア



ダウンロード URL

https://co.earth-hacks.jp/earthhacks-corporate/assets/zip/Earthhacks_PressKit.zip

本プレスキットに関するお問い合わせ

Earth hacks 株式会社 広報担当:花井

代表インタビューのご相談、個別実装事例等の取材などは
下記よりお気軽にご相談ください。

メールアドレス：Earthhacks_PR@earthhacks.co.jp